

**ア** ポイ岳ジオパークがある様似中学校の生徒が、7月12日から2日間、「洞爺湖有珠山ジオパークの産業を学んで、アポイ岳ジオパークを考えてみよう！」を研修テーマに、洞爺湖町周辺のジオサイトを視察する宿泊研修を行いました。

アポイ岳ジオパークは、2015年9月に、道内では洞爺湖有珠山ジオパークに次いで世界ジオパーク認定を受けた地域です。

訪れたのは、同中学校の2年生37人。

今回は、洞爺湖周辺地域の各産業を中心に、地域の現状やジオパークとの関連性を学

び、洞爺湖周辺地域を知ることと、様似町への理解を一層深めようと実施されました。

1日目は、ジオグループ、行政グループ、水産業グループなど7つのグループに分かれ、研修を実施。

水産業グループの5人は、大磯漁港で漁船に乗り、実際のホタテ養殖の漁場へ向かいました。



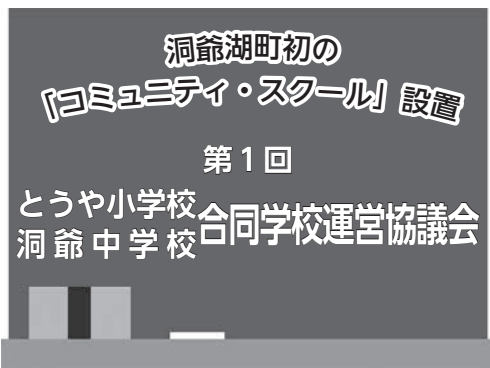
ホタテの養殖現場を視察する中学生たち

船上では、福島正和いぶり噴火湾漁業協同組合虻田地区青年部長の説明を受け、耳づり用のカゴを引き上げ、ホタテの稚貝を確認するなど、実際の養殖現場を視察しました。

た。下船後には、成員になる前のホタテを夕食し、「甘くておいしい」と生徒たちは大喜び。

班長の金子里桜さんは「予想していたより、養殖場が広くて驚いた」と見学を振り返りました。

2日目は、洞爺湖ビジターセンターと火山科学館で研修を行い、その後金比羅火口災害遺構散策路を見学し、研修を終えました。



6月28日、洞爺湖町で初めてとなる「コミュニティ・スクール(CS)」が設置され、とうや小学校と洞爺中学校の合同学校運営協議会が、洞爺中学校で開かれました。学校

運営協議会委員、各学校関係者、行政などから23人が出席しました。

CSは、地域住民や保護者らが、学校運営協議会の委員として、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動や人事について意見を述べるができる制度です。

現在、子どもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題が複雑化、困難化していて、学校だけの解決は難しい状況になっていることから、今年度に、洞爺地区の小、中学校を、来年度には、残りの小、中学校でCSを設置する予定となっています。

会議では、遠藤教育長が「コミュニティ・スクールは、学校の応援団として、一定の権限を持って学校運営を行って行くものです。良い先行事例となるよう、よろしくお願います」と挨拶しました。

続いて、壮瞥町教育委員会生涯学習課の永堀善之課長補



コミュニティ・スクールについて話し合う学校運営協議会委員の皆さん

佐による先進地事例発表が行われ、CSについての説明や学校運営協議会や同運営委員の役割を紹介し、「初年度はゆるやかに今まで積み上げてきたものを実施することがよい」と話しました。

引き続き、規則などの説明や学校運営に関する基本的な方針の承認、学校状況の説明などがあり、最後に役員の互選が行われ、とうや小学校の運営協議会会長は、菊地哲也さん、一方洞爺中学校の会長には、毛利 納さんが選出されました。